

投手戦 光星1点遠く



【青森山田—八学野西】8回途中4安打7三振、1失点だった八学光星の渡部和幹

力投渡部に援護なし

八学光星の連覇の夢はライバル青森山田に断ち切られた。打線は連投だった相手エースに手を焼き、力投していた味方エースを援護できなかった。仲井基監督は「打ち気にはやっているところを変化球でかわされた」と唇をかんた。

焦点

光星の先発渡部和幹は立ち上がりから制球力を生かした投球が光った。七回まではわずか1安打と、相手に二塁を踏ませないほぼ完璧な内容。「うまく出し入れをして、持ち味を發揮できていた」とうなずく。

八回も投球は悪くなかったが、1死二塁から相手8番への2球目の低めのスライダーは、左前にボトリと落ちる適時打となった。「しっかりコースに

決まったと思ったが、拾われてしまった」と肩を落とした。打線は今夏の青森大会の映像で相手主戦の特徴を分析してきた。初回、三回、七回と1死二塁の好機を3度つ

（上村公博）

つたが、生かせなかった。仲井監督は「ただ打ち込む練習をするだけでは駄目だった。試合の中での対応力に欠けていた」と厳しい表情を浮かべた。八回途中でマウンドを降りた渡部は「先制点を与えてしまった自分の負け」と潔かった。来春、来夏の巻き返しには、攻撃力強化が欠かせない。仲井監督は「パンチ、走塁なども磨いて、打てなくても得点できる戦いを身に付けたい」と課題を挙げた。

4強出そろそろ

青森県 秋季高校野球

秋季青森県高校野球選手権第2日は9日、県内2球場で準々決勝が行われた。県南勢は工大一が五校連合（五所商、黒石、松風塾、浪岡、板柳）に10—3で七回コールド勝ち。八学光星はライバルの青森山田に0—1で敗れた。三沢は弘前南に土壇場で逆転負け。八学野西は反撃及ばず東義に涙をのんだ。準決勝の対戦カードは弘前南—青森山田、工大一—東義となった。

県高野連は新型コロナウイルス感染防止対策として、大会の試合日程、会場を公表しておらず、保護者を含めて完全無観客で開催している。

今大会の上位3校は東北大会（20～26日・宮城県）への出場権を獲得する。

（取材班）

準々決勝

青森山田	0	0	0	0	0	1	0	1
八学光星	0	0	0	0	0	0	0	0

（青）堀内—衛藤
（八）渡部、洗平、宇田—文元
▷二塁打 文元（八）
▷試合時間 2時間2分
（球審—梅田、塁審—関、小松、長内）

【評】青森山田が息詰まる投手戦を制した。前日から連投だった左腕堀内は緩急がさえ、無失策の守りもあって散発4安打、無四球で完封。八回に伊藤の左前適時打で1点を挙げた。八学光星は3度あった1死二塁の好機を生かせず、投手陣を援護できなかった。

救援斎藤 踏ん張る

○…八学野西は打線が速球主体の相手主戦に4安打と振るわなかった。六回には相手の制球の乱れに乗じて4点差に詰め寄ったが、畳み掛けるまでには至らず、4強入りを逃した。寺嶋恭祐監督は「良い投手を前にすると打てない。足を絡めた攻撃を伸ばしていかなければ」と課題を挙げた。

野西打線振るわず

ただ、光明もあった。四回、5点を失い、なお2死一、二塁のピンチでマウンドに上がった2番手の斎藤亮太が三ゴロに打ち取った。五回は2点を失ったが、六回以降は強打の相手に無失点と踏ん張った。斎藤は「コースを突いた変化球で打ち取れた」と納得の表情を浮かべた。



【八学野西―東義】4回からマウンドに上がり、2安打2失点だった八学野西の斎藤亮太

八学野西	0	0	0	0	1	3	0	0	0	4
東義	1	0	0	5	2	0	0	0	X	8

(八) 塩倉、斎藤―伊藤

(東) 角田、木村、角田―後藤

▷二塁打 工藤、今泉、福士(東)▷暴投 塩倉、斎藤(八)

▷試合時間 2時間41分

(球審=古川、塁審=小田、伊藤、穂元)

【評】東義は四回、長短5安打に相手の制球の乱れも絡み、打者10人で5点を奪取。五回には福士の左中間2点二塁打で突き放した。八学野西は打線が4安打に抑えられた。7点を追う六回に5連続四死球などで3点を返したが、七回以降は二塁を踏めなかった。